

# 第5学年 道徳学習指導案

日時 平成16年10月6日(水)5校時

学級 一関市立中里小学校 第5学年

男子22名 女子15名 計37名

授業者 叶内 博行

1. 主題名 相手の立場になって (2(4)寛容・謙虚)
2. 資料名 「すれちがい」 (みんなのどうとく5年 学研)
3. 主題設定の理由

## (1) 価値について

高学年における内容項目2-(4)は「謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。」となっており、広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な謙虚な心と広い心を持った児童を育てようとする内容項目である。

広がりや深まりのある人間関係を築くためには、他者に対する開かれた心が特に大切になってくる。他者に対して開かれた心を持つには、まず自分に謙虚でなければならない。

この期の児童は自我が発達する一方、自分の立場や利害だけで行動をしがちである。しかし、自分の立場や利害だけの自己主張には無理があることに気付くことが必要である。その上で真の自我形成に至る道筋を開いてやる必要がある。また、自分と異なる見方や立場を尊重して他者理解を深め、受け入れていこうとする広い心が大切になってくると考える。

## (2) 児童の実態について

学級の児童は、明るく元気で素直な心を持った子が多い一方、男子に積極的に自分を表現しようとする子がいるが、全体的には自己表現が弱い傾向にある。特に女子の自己表現が弱く、日常の生活や学習の中で自分の考えを出し合い、そうすることで学級(集団)が高まっていくことを期待している。

1学期の前半に比べると、友達をからかったり腹を立てたりする場面は少なくなってきた。しかし、相手の気持ちを考えることを頭では理解していても、いざその場に立つとその時の自分本位な感情やふとしたところから相手の失敗を責めたり腹を立てたりして、相手に厳しい言動をとってしまっている場面もまだ見受けられる。たとえ心の中では仲良くしようと思っても、つい我を通そうとしたり相手の立場を受け入れようとする広い心を持てなかったりと、自分たちの力で解決できないでいることも少なくない。

そこで、子どもたちには、まず互いに謙虚な心を持ち、相手の意見を素直に聞き、相手の立場に立って考える態度を身につけ、異なる意見や立場にも広い心で対処できるようにさせていきたい。そうすることで、今後さらに広がりや深まりのある人間関係(学級集団)を形成していけるように役立てていきたいし、見守っていきたい。

## (3) 資料について

本資料は、「よし子」と「えり子」の二人がちょっとしたすれちがいのために仲たがいでしまったその日の出来事を自分本位の立場から日記に記したものである。

「よし子」と「えり子」はピアノのおけいこに一緒に行く約束をした。しかし、「えり子」は母に頼まれてお使いに行き、約束の時間に行くことができなくなった。「よし子」は「えり子」に腹を立て、「えり子」も言い分を聞いてくれない「よし子」に腹を立ててしまう。そして、「お互いにつきあいたくない」と思ってしまおうという内容である。

このような内容は日常よくありがちな出来事であるため、子どもたちが身近な問題として考えやすい資料である。また、二人の主人公がそれぞれの立場から書いた日記であるため、二人のそれぞれの考えや立場を共感的に受け止めて進めることができ、ねらいとする価値に迫るには適切な資料であるといえる。

指導にあたっては、まず自分が悪くないと思ったのに、謝らされてスッキリしない気持ちになった経験やその時の気持ちを発表させ、資料への導入を図る。そうすることで、展開後段の話し合いの中で自分本位な見方で物事を捉えてしまいがちであることに気付く一助としたい。

展開前段では「えり子」に腹を立て、知らん顔をしたよし子がどんな気持ちか考えることで約束を破られ、待たされたよし子の腹立たしい気持ちに共感させる。

次に、知らん顔をされた「えり子」の気持ちを考える。そして、事情があったにもかかわらず、理解してもらえない「えり子」の気持ちに共感させる。また、「よし子」の自分本位なところを裏付けていきたい。

展開後段では、2人にこの後どうなってほしいかを考え、話し合っていく。その中でどちらが悪いなどといった非の多少に関係する話し合いからどちらにも足りなかった気持ちがあったことに気付かせていきたい。その上で、相手のことを思いやり相手の立場になって考えたりすることが大切であるという価値に迫っていきたい。また、そういった話し合いを進めることにより、子どもたちの日常生活にもつながっていくものとする。

今後の子どもたちの日常生活についてはできるだけ教師側からすぐに口を挟まず、子どもたち自身の力で対処ができるように見守っていくように心がけたい。

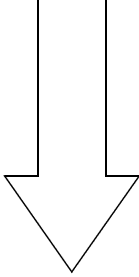
#### 4. 本時の展開

##### (1) ねらい

物事を自分本位な見方で捉えてしまいがちであることに気付き、広い心で相手の立場を考え、自分と異なる意見や考えも大切にしようとする気持ちを育てる。

##### (2) 展開

過程	学習活動(教師の働きかけ)	期待する児童の心の動き	支援と留意点
導入 5	1. 日常生活で、自分が悪くないと思ったのに謝らされたことについて発表する。 その時の気持ちはどうだったか。		・日常的によくある切実な問題であることと意識させ、資料への方向付けを図る。
展開 前 段 追	2. 資料を読んで話し合う。 (1)よし子やえり子の心情について考える。  約束を破られたよし子はどんな気持ちだったでしょうか。  つんと横を向いているよし子を見て、えり子はどんな気持ちになっていったでしょう。	・自分から誘っておいてひどい。 ・電話ぐらいくれてもいいのに。 ・少しは反省して ・すごく待っていたのよ。 ・もうつきあいたくない。  ・約束を守れなくてごめんね。 ・遅れてごめん。 ・かなり怒っているわ。どうしよう。 ・私の理由も聞いてほしい。 ・何で謝ったのに許してくれないの。 ・もういっしょにいきたくない。	・それぞれの立場になって考えやすくしやすくするため資料は別々に提示し、その都度発問していくようにする。 (資料は色の違う用紙に印刷して配布し、板書とも関連をもって指導していく。) ・約束を破られ、待たされたよし子の腹立たしい気持ちに共感させる。 ・事情があったにもかかわらず理由も聞いてもらえず理解してもらえないえり子のくやしい気持ちに共感させる。と同時によし子の自分本位な態度を裏付けていく。

展 開 後 段	求 / /	(2) 2人にこの後どうなってほしいか考える。 この後、2人はどうなっていくのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲直りする。</li> <li>・よし子が謝る。</li> <li>・お互いが謝って仲直りをする。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の都合だけでなく、相手の都合も考えてあげる気持ち。</li> <li>・相手を思いやる気持ち。</li> <li>・相手の立場になって考える気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに非があることに気付かせるため、教師があえてよし子に謝らせるような立場をとる。</li> <li>・ の発問の時に出てきたよし子の自分本位な態度に戻り、よし子の非がより多いことを印象づける。</li> <li>・導入部分ですっきりしない気持ちになった自分と重ね合わせながら考えさせるようにする。</li> <li>・非の多少に関わらず、どちらにも足りなかった気持ちを考えていくように話し合いを進めるようにする。</li> <li>・より好ましい人間関係を築き、保っていくためにどうすることが一番良いことなのか考えることにより、自分たちの日常生活につなげていきたい。</li> </ul> <p>どちらにも足りなかった気持ちはどんな気持ちでしょうか。という補助発問を用意しておく。</p>
37	学 習 の 整 理 ・ ま と め	4. 「心のノート」P48～49の相田みつをの詩を読み、「寛容」について考える。 「やわらかいところ」ってどんな心でしょう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場で気持ちを考えられる温かい思いを持つとともに相手の立場や気持ちを思いやるのが好ましい人間関係を築いていくことを伝えたい。</li> <li>・相手の立場で気持ちを考えられる自分に温かい思いを持つ。</li> </ul>

(3) 板書計画

(3) 板書計画

すれちがい

場面絵

絵

場面絵

えり子

<えり子の気持ち>

走って買い物へ  
(ことわれない)  
約束の電話  
混んでいるスーパー  
全速力で広場へ  
「ごめんね。あの・・・」

- ・約束を守れなくてごめん。
- ・遅れてごめん。
- ・かなり怒っているわ。
- ・どうしよう。
- ・私の理由も聞いてほしい。
- ・許してくれてもいいのに。
- ・もういっしょにいきたくない。

よし子

<よし子の気持ち>

- ・自分から誘っておいてひどい。
- ・電話ぐらいくれてもいいのに。
- ・少しは反省して。
- ・ずっと待っていたのよ
- ・もうつきあいたくない。

2階でピアノ

出なかった  
電話をして伝言を頼む  
広場で待つ。(30分)  
一人でピアノへ  
知らん顔

5. 資料分析図

主題名 相手の立場になって ( 価値 2 - (4) 寛容・謙虚 )

資料名 すれちがい (「みんなのどうとく 5年」 学研)

場面	よし子の日記 約束をしたピアノのけいこに行く時間を伝える電話を待ったがかかってこないののでこちらから電話をする。	よし子の日記 えり子の母親に、2時に広場で待つという伝言を頼み、30分近く広場で待つが、えり子の姿は見あたらない。	よし子の日記 一人でピアノのけいこに向かう。遅れてきたえり子が言い訳をし始めたが、知らん顔をした。
	えり子の日記 お母さんにお使いを頼まれ、ピアノは4時にしようとよし子に電話をかけたが、誰も出ない。仕方なくお使いに出かける。	えり子の日記 お使いに行ったスーパーが混んでいて、電話のことが気にかかるが何ともできずに家に戻る。大急ぎで広場に向かったが、よし子の姿は無かった。	えり子の日記 3時過ぎにピアノの先生の家に行き、よし子に謝ったがつんと横を向いて返事もしてくれない。
	よし子 ・えり子さん、どうしたのかな ・早く電話をしてくれないかな	よし子 ・何をしているのだろう。 ・えり子さんも家に戻るだろう。 ・人を誘っておいて、電話もしないなんて。	よし子 ・約束を守らないでひどい。 ・今さら言い訳をするなんて。 ・もう付き合いたくない。
登場人物の心の動き	えり子 ・お使いは断れないし、どうしよう。 ・約束の時間を4時に変えてもらおう。 ・とにかく電話をしなくては。	えり子 ・混んでいてこまったなあ。 ・電話しなくちゃ。 ・よし子さん、待っているだろうな。 ・急がなくちゃ。	えり子 ・遅れてしまって悪かったな ・連絡をすればよかったな。 ・遅れた訳ぐらい聞いて欲しい。 ・そんなに怒らなくても。
	基本発問 約束を破られたよし子はどんな気持ちだったでしょうか。 つんと横を向いているよし子を見て、えり子はどんな気持ちになったでしょう。 ③この後、2人はどうなっていくのでしょうか。 どちらにも足りなかったのはどんな気持ちでしょう。		
期待する児童の心の動き	・自分から誘っておいてひどい。 ・電話ぐらいくれてもいいのに。		・少しは反省して ・すごく待っていたのよ。
	・約束を守れなくてごめんね。 ・遅れてごめん。 ・かなり怒っているわ。どうしよう。 ・私の理由も聞いてほしい。 ・もう付き合いたくない。 ・仲直りをした方がいいよ。 ・お互いに謝るべきだ。 ・どちらにも反省する点がある。 ・相手を思いやる気持ちを持たなくては。 ・自分のことだけしか考えてなかったなあ。相手のことも考えよう。		

主価値	寛容・謙虚
-----	-------